

① 安心安全に対する政策について

近年、阪神淡路大震災、東日本大震災、そして、昨年の熊本地震や鳥取での地震など、これまでの経験則では想定しがたい震災が起きている。

また、広島県・山口県で起こった土砂災害、昨年暮れに起きた糸魚川市大規模火災はフェーン現象などが重なり甚大な被害を出した。本町で想定される災害は温暖化の現象と言われる降雨災害や土砂災害が考えられるが、その様々な場面を考えた備えが必要である。

「自分の命は自分で守る」これは、私たちが常日頃から意識しておくべきであり、正しい知識を持っておくことが身を守るための基本となる。

防災とは「生きぬく」基本的な手段であると考え。そのために何が必要であり、官と民が連携を図るために何が大切なのか、考えておかなければならない。

また、これまでの災害の教訓として、防災、減災を含め、日頃から安心安全のための対策において、女性の視点を生かしていくこと、子供の目線で策を講じることも課題の一つとなっている。「まさか」ではなく「もしかしたら」という意識、危機感を持ち、安心安全に繋がる取り組みをこれまで以上に推進していくこと。そして、それぞれの視点からのニーズに合った見直しも継続して行う必要がある。そこで、質問をする。

- (1) 様々な災害が想定される中、住民に協力をしてもらうための環境づくりが重要と考えるが、どのように取り組み、継続していくのか。
- (2) 災害を想定したマニュアルの策定はしていると思うが、そのための訓練などは計画しているのか。
- (3) 防災計画には行政と町民の役割分担が明記されているが、どのような方法で周知していくのか。
- (4) 女性の視点を生かした「安心安全」の取り組みをどう考えているか。
- (5) 小・中学校における防災・日頃の安全な生活のための取り組みはどのようなものか。